

「小・中学校の連携を通し、豊かな心をはぐくむ道德教育の推進」

～生命を尊重し、よりよい生き方を考える児童の育成をめざして～

I 研究の内容

1 研究の仮説

指導過程や指導法の工夫をして道德の授業の充実を図ったり、学校と家庭・地域が連携して道德的実践活動を行ったりしていくことにより、心豊かでよりよい生き方を考える児童が育つであろう。

2 研究の具体的内容

(1) 道德の授業について研究し、充実を図る。

- ・ 道德指導計画，道德プランに基づく道德授業の実践と修正を行う。
- ・ 行事，特活，総合的な学習の時間，他教科と関連した指導を行う。
- ・ 資料の分析，教材の開発，教員の支援・発問・板書などの指導法の研究。
- ・ 地域教材，ゲストティーチャーの活用を図る。
- ・ 職員間で道德の授業を公開し合い，学び合う機会を持つ。

(2) 塩山北中学校ブロック，家庭・地域との連携，交流を行う。

- ・ 中学ブロックでの9年間を見通した研究実践および他校との連携，交流を行う。
- ・ 家庭・地域が連携しての道德的実践活動を計画，実施する。
- ・ 授業参観日等を利用し，授業を家庭・地域に公開する。
- ・ 学校，学年だより等を利用し，学校での道德教育の様子を地域や家庭に発信する。

(3) 児童の実態を調査し，前年度までとの比較からその変容を把握し指導に生かす。

(4) 道德的環境づくり，規律ある学校生活づくりの実践。

- ・ 子どもたちに豊かな心をはぐくむ校内，地域の環境を整備していく。
- ・ あいさつ運動，学校のきまりを守る，ごみ拾いなど，児童会活動と連携し実践する。
- ・ 次年度以降にも活用できるような記録や資料，教材の有効な保存について。

II 成果と課題

(1) に関わって

- ・ 研究を積み重ね，指導する教員自身が道德の時間はやりがいがあり，楽しいものであるという意識に変わってきているように思う。
- ・ 地域のゲストティーチャーを活用することは，地域とともに子どもを育てるよい機会となると思う。これからも関わり合いを持ち，協力していただける環境を維持していきたい。
- ・ 学校で共通した指導過程のもと，それぞれの学級で道德の時間の創意工夫ができた。

道徳の時間には様々な考えがあつてよいことをこれからも心がけて、授業づくりをしていきたい。

- ・資料の吟味や発問・板書の工夫，ゲストティーチャーの活用などを行うなかで，子どもたちの道徳的実践力を高める授業づくりができたことは大変よかった。道徳の時間の話し合いにより，関わり合おうとする意欲，関わり合う力が増してきているように思う。
- ・授業参観日に実施したことで保護者に道徳教育を理解してもらい，家庭でも関わりを深めてもらうことができよかった。

(2) に関わって

- ・4校で話し合い，確認し合いながら研究が進められていてよいと思う。
- ・各小中学校の授業研究会に参加し，どの学校も熱い思いが感じられた。切磋琢磨し，本校の研究や授業の質を高めることにもつながった。
- ・他校の授業や研究のようす，日常の取り組みを知ることは何より意義があると思う。

(3) (4) に関わって

- ・実態調査を行い経年比較をしながら児童の実態を洗い出し，今年度の道徳教育に生かすことができた。
- ・標語や道徳講演会の掲示など校内環境が次第に整い，子どもたちにもよい影響を与えている。
- ・学校だよりを発行し，地域の全世帯へ学校の道徳教育等の取り組みを発信することができた。学校の研究の内容や実践のようすを知ってもらうのは有意義だと思う。保護者ではない地域の方からも好評を博していた。

III 成果物

1 検証授業指導案（ワークシート等も含む）

- 2年 郷土愛「ふるさと先生」 飯室美華教諭
- 3年 礼儀「電話の向こうはどんな顔」 水上由人教諭
- 6年 不撓不屈「鈴木徹さんの生き方に学ぶ」 大村健一教諭

2 公開実践授業指導案

- 1年 礼儀「かめさんありがとう」 村田裕美教諭
- 4年 礼儀「小さなしんしたち」 中村弘和教諭
- 5年 生命尊重「かけがえのない命」 飯島典子教諭

3 その他

- 実態調査結果と考察
- 学校だより（600部印刷し，地域全世帯に配付，年間5回発行）
- 道徳全体計画，行事と道徳教育との関連表，各学年の道徳年間指導計画
- 3つの重点項目（礼儀，生命尊重，郷土愛）における各学年の道徳プラン
- 道徳教育に関わる掲示資料（生命の木，読書コーナー，標語，他）
- 道徳の時間の学習指導過程表

（研究主任 中村弘和）